



椎の木

令和6年11月1日発行 11月号

朝霞市立朝霞第八小学校

〒351-0012 朝霞市栄町5-1-41

TEL:048-465-8381 FAX:048-467-4739

児童数：1,139名

【目指す学校像】教育は子供の未来づくり ～児童に未来を生き抜く力の基礎を育てる学校～

校長 田中 誠



10月12日(土)に第49回運動会を実施しました。5年ぶりに全校児童を運動場に集め、ブロック別ではなく一斉開催としました。練習期間中から応援練習の音が教室から響き渡り、校舎内でも運動会に向けた子供たちの意気込みが伝わってきました。

本番当日はスローガンの「笑顔かがやけ！ 勝利に向かって燃え上がれ！！」にふさわしく、6色全てが力を出し切り、素晴らしい走りや演技を見せてくれました。徒競走では各色の一致団結した応援の音が響き渡ったり、演技では大きな拍手が沸き起こったりするなど、子供たちが自分たちの手で運動会全体を盛り上げてくれました。また、6年生は最高学年として係活動に取り組み、運動会を支えてくれました。赤組の優勝で幕を閉じた運動会。保護者の皆様には、入れ替え制への協力や子供たちの頑張りに対する温かい声援・大きな拍手をいただき、ありがとうございました。

さて、朝霞市では10月と11月を「いじめ防止月間」として、いじめを許さない学校づくりを推進しています。いじめは、決して許されることではありませんが、どの子にも、どの学校でも起こり得るものであります。そうした認識のもと常にアンテナを高くし、早期発見に努め、きめ細かく対応し100パーセントの解消を目指しています。

では、なぜいじめは起こるのでしょうか。文科省の「いじめ対策Q&A」では「不満やストレスのはげ口として起こりがちです。」と記されています。何らかの不満やストレスを抱えている子供は「自分が大切にされていない」「誰かに認めてもらいたい」と思う傾向が強いです。また、不満やストレスへの耐性がなく我慢が苦手な子供もいます。

感情をうまくコントロールできたり、不満やストレスを抱えていることを言葉にして伝えられたりすれば、いじめには発展しないかもしれません。しかし、自分の感情をどう知ればいいのかわからない子供は、不満やストレスのはげ口として、周りの人に八つ当たりをしたり、他人をおとしめ自尊感情を維持しようとしたりすることで、自分自身を保とうとします。そして、その行動がいじめに発展する可能性があるのです。

いじめに発展させないよう自尊感情を維持したり高めたりするには、周りの大人の日頃からのかかわりが大切です。「励ます」「誉める」「認める」「優しく思いやりをもって育てる」「ダメなことはダメとしっかりと叱る」などがキーワードになるのではないのでしょうか。



10/24 しいのみまつり



10/26 ふれあいまつり
四中校区 地域との交流活動



10/19 子ども議会
6年生2名が参加しました

STOP いじめ

